

# 契約候補者の技術提案書 (全編)







(1)建設地の災害リスクを踏まえた地震・洪水等の災害時の安全性、業務継続性を確保するためのハード・ソフト両面での考え方と検討の進め方

考え方

「地域防災計画」「業務継続計画」「受援計画」「エリア防災計画」を確実に実践する熊本式ノンダウン庁舎

地域防災計画

業務継続計画

受援計画

桜町・花畑地区エリア防災計画

あらゆる災害

熊本式ノンダウン庁舎

新庁舎における事業継続性確保の考え方

予防

復旧・復興

応急対応

予防から復旧・復興までのフェーズごとに必要な災害対策を整理し、整備方針を決定

- 「業務継続計画」を確実に実行するため、予防・応急・復旧・復興のフェーズで必要な対策手法を体系化した『災害対応マトリクス』を作成します。
- 豊富な防災庁舎実績の知見に基づき、防災性能の優先順位を見える化しながら、貴市と共に災害対策拠点の与件を整理・決定します。
- 平時においても災害時の避難シミュレーションや浸水マップなどの情報を発信し、市民防災力を向上する防災学習の場として『市役所ひろば』を検討します。

予防時の対応

災害リスクに備えた、安全で費用対効果の高い予防対策

1. 地震リスクに対するハードの対策

■液状化リスクを低減

- NTT桜町ビルの既存杭存置を検討し安全性と経済性を両立させます。

■総合耐震クライテリアの導入

- 建設地特有の模擬地震動(サイト波)作成、過去の地震データを参照し、建築基準法やそれを上回る地震に対して耐震性能を検討します。
- 構造体および非構造体に対して、様々な地震レベルにおける耐震性能や損傷レベルを明確にした耐震設計を行います。

■本庁舎、区役所の役割に応じた構造計画

- 本庁舎は災害対策拠点となるため免震構造を有力候補とし、経済性、維持管理、外観など総合的観点から免震層位置やシステムを検討します。
- 区役所は経済性などを踏まえ耐震・制振・免震構造を比較検討します。

応急時の対応

確実に災害対策拠点機能を維持するノンダウン庁舎を検討

1. ハード対策

- 災害対策の拠点として、発災・インフラ途絶時に少ないエネルギーで庁舎機能が自立・維持するよう、自然エネルギーの活用を検討します。
- 弊社独自の『被災度判定システム』があり、加速度センサーにより、地震時の被災度判定を瞬時に行うだけでなく、躯体損傷や非構造材の被害を精度良く把握し、次の地震に備えた合理的な復旧計画に活用できます。
- 隣接するサクラマチクマモトとの垂直避難の共有、災害対策本部機能のバックアップ施設としての熊本城ホールとの連携を検討します。

2. ソフト対策

- 既存の「くまもとアプリ」と連携し、『市役所ひろば』を災害情報の発信拠点として、サイネージで被災情報や支援情報をリアルタイムでの共有できる場とすることを検討します。

復旧・復興時の対応

様々な支援を受け入れエリアの防災力も高めるパブリックスペースを検討

1. ハード対策

- 外部支援組織を受け入れるリエゾンスペースは、災害対策本部との連携や外部からの出入しやすい低層部に配置することを検討します。
- 復旧の状況に応じて本庁舎・区役所で窓口機能やリエゾン機能等を役割分担できる柔軟な建築計画を検討します。

2. ソフト対策

- 『市役所ひろば』では、支援物資やボランティアの受入、罹災証明発行スペースなど、多目的に利用できるように検討します。
- 応急・復旧・復興時における「エリア防災計画」と本庁舎の相互扶助の役割分担を再検討します。

(2)災害対応の司令塔となる防災拠点機能の充実と円滑な災害対応ができる空間構成の考え方と検討の進め方

考え方

独立性と拡張性のある災害対策拠点と様々な支援活動ができるパブリックスペース『市役所ひろば』

花畑広場

一時避難場所

ボランティアセンター設置

マンホールトイレ

リエゾンスペース

災害対策本部拡張エリア

災害対策本部

災害対策本部

リエゾンスペース

一時避難場所

災害時の低層部利用イメージ

支援物資の搬入

炊き出し、支援物資の配給

災害情報提供エリア

防災拠点の司令塔となる災害対策本部の高いセキュリティの維持

- 災害対策本部は3階に、災害支援スペースとなる『市役所ひろば』は、1階に設け、災害対策本部と災害支援スペースの活動が交わらない階構成を検討します。

日常の設けが災害対策拠点に早変わりするフェイズフリー庁舎

- 『市役所ひろば』が『災害支援スペース』『復興支援窓口』に、『会議室』が『災害対策本部』や『リエゾンスペース』に早変わりするなど、日常の利用と災害時の利用のフェイズフリーを検討します。

災害規模に対応する、可変性のある災害対策本部

- 災害対策本部は、リエゾンスペースを兼用する低層部の『市役所ひろば』との連携を重視し、その上階への設置を検討します。
- 大きなワンプレートの執務室の構成を活かし、災害レベルや災害種別に即してフレキシブルに規模を拡張できる災害対策拠点を検討します。
- 「レベル5(最大1/3程度の職員)」までは3階にまとまって配置、「レベル5強化(全職員)」の場合でも2フロアに集約することで、連携の取りやすい本部機能を検討します。
- 特別職ゾーンをはじめとする、危機管理ゾーンに会議室を隣接させ、拡張性の高い災害対策本部とします。またその他の会議室は防災会議室、情報収集・分析スペースなどに転用できる計画とします。

様々な災害支援スペースとなる『市役所ひろば』

- 低層部の『市役所ひろば』を、花畑広場と連携して、災害支援活動を行う緊急車両の乗り入れが可能な軒下空間として検討します。
- 屋内の『市役所ひろば』は、外部とつながり内外一体的に様々な支援活動に活用することを検討します。
- 『市役所ひろば』に面する飲食施設で炊き出しを行うなど、日常の設備インフラを災害時に活用することを検討します。
- 『市役所ひろば』前の大きな半屋外の軒下空間をパンデミック時のワクチン接種会場としての利用することも検討します。

検討の進め方

防災拠点の与件を確実に整理する『防災分科会』

- 各種防災指針を確実に実現するため、必要となる機能、規模、配置などの与件は、関係各課へのヒアリングを基に、関係各部署の意見を集約する『防災分科会』を通して『熊本市ならではの防災拠点のあり方』の方針を整理します。
- 上記の方針を専門家へのコミショニングを通じて検証する体制づくりを検討します。
- 予防、応急、復旧・復興の段階で必要となる人的支援・物的支援・外部組織との連携の為のスペース、配置を検討します。
- 災害時の『市役所ひろば』および『区役所』での被災者対応について、WSや職員及び専門家へのヒアリングを踏まえて検討していきます。

	予防	応急	復旧・復興
地震	<input type="checkbox"/> 構造形式 <input type="checkbox"/> スケルトン天井 <input type="checkbox"/> 自家発電設備 <input type="checkbox"/> 電力、通信の多重化	<input type="checkbox"/> 衛星通信の導入 <input type="checkbox"/> 太陽光発電設備 <input type="checkbox"/> 緊急車両駐車場 <input type="checkbox"/> 防災訓練	<input type="checkbox"/> 防災拠点 <input type="checkbox"/> 一時避難場所 <input type="checkbox"/> 防災井戸 <input type="checkbox"/> マンホールトイレ
洪水	<input type="checkbox"/> 主要機器の上階配置 <input type="checkbox"/> ヘリポート	<input type="checkbox"/> 自然換気システム <input type="checkbox"/> 飲食の備蓄 <input type="checkbox"/> 垂直避難場所 <input type="checkbox"/> 建物の高床 <input type="checkbox"/> 防潮板	<input type="checkbox"/> 防災拠点 <input type="checkbox"/> 災害情報提供 <input type="checkbox"/> 復興支援窓口 <input type="checkbox"/> 罹災証明の発行 <input type="checkbox"/> 炊き出し
ゲリラ豪雨	<input type="checkbox"/> 1階レベルのかさ上げ	<input type="checkbox"/> 防潮板	<input type="checkbox"/> リエゾン受入 <input type="checkbox"/> ボランティア受入 <input type="checkbox"/> 炊き出し
パンデミック	<input type="checkbox"/> 自然換気システム <input type="checkbox"/> パーテーション	<input type="checkbox"/> マスク、防護着の備蓄	<input type="checkbox"/> ワクチン接種会場 <input type="checkbox"/> 感染症対策窓口

災害対応マトリクスのイメージ

2. 浸水リスクに対するハード対策

- 浸水レベルを3段階に分け、①ゲリラ豪雨(約+0.2m)及び②内水氾濫(約+0.5m)は1階レベルのかさ上げや防潮板設置により対策します。③河川氾濫(約+3m)には、重要機能・重要諸室を2階以上の設置を検討します。
- 区役所の個人情報を抱う窓口は、浸水のおそれのない2階設置を検討します。
- 洪水対策の視点からも免震層の配置計画や免震装置の種類を検討し、地震対策と洪水対策の整合を図ります。

構造形式	耐震構造	制振構造	免震構造	基礎免震	1階柱頭免震
構造概要図					
耐震性能	○	○	◎	◎	◎
地震後復旧	×	○	◎	◎	◎
経済性	○	○	△	△	△
空間自由度	×	△	○	○	○
洪水対策	○	○	○	△	△

構造形式の比較

インフラ途絶時：7日間の維持を行うための手法

自然エネルギー	・停電時、市民利用可能な太陽光発電電力を『市役所ひろば』に供給 ・断水の長期化に備え、市水に頼らない井戸水の利用 ・自然換気による室内換気計画
電力	・電力インフラ引込を多回線化し、電力引込の強強化 ・停電時、7日間災害対策拠点としての機能維持できる自家発電設備を導入
通信	・通信インフラ引込を多回線化し、通信引込の強強化 ・通信インフラ途絶時に対応できる衛星通信を導入
上下水	・断水7日分の水槽計画、飲用水備蓄計画 ・下水断絶7日分の緊急排水槽の計画
空調換気	・停電時、重要機能室の空調換気設備は別系統とし、自家発電電力供給

BCP性能の検討事例

熊本駅地域エリア防災計画

熊本桜町ビル

日本生命熊本ビル

肥後銀行本店

花畑広場

NTT熊本

朝日新聞

国際交流会館

区役所

黒字:既存の役割

赤字:新たな機能

エリア防災力の向上

2つの視点で役割分担の最整理を検討

拠点機能の業務継続性の向上

「エリア防災」と「防災拠点機能の業務継続」の両方を強化できる役割分担を最整理

応急

本庁舎

区役所

7日間閉鎖

一時避難場所

会議室

執務ゾーン

一時避難場所

災害対策本部機能

リエゾンスペース

災害対策本部(レベル5強化)

災害情報提供スペース

簡易診療スペース

一時避難場所

災害時の低層部利用イメージ

復旧復興

本庁舎

区役所

市民

リエゾンスペース

一時避難場所

会議室

執務ゾーン

一時避難場所

災害対策本部機能

リエゾンスペース

災害対策本部(レベル5)

災害情報提供スペース

簡易診療スペース

一時避難場所

災害時の低層部利用イメージ

災害フェイズ毎にフレキシブルに用途が変更できるフェイズフリー庁舎

内部組織と外部支援組織の連携を重視した階構成とゾーニング

■リエゾンに必要なスペースの検討

- 応急対策段階から復旧・復興段階までの災害フェイズ毎に必要な、国や県、公共機関、自衛隊などとのリエゾンスペースの機能的配置、適切な規模を検討します。
- リエゾンスペースは、花畑広場からアクセスが容易な低層部の執務室や会議室の利用を検討します。
- 近隣施設と連携による受援性能向上
- バスターミナルに隣接していることを最大限活用し、人や物資が災害拠点へスムーズに供給・支給できる動線を検討します。
- 交通インフラの要となるバスターミナルを利用継続しながら、サクラマチクマモトの2階車寄せを利用した各種支援物資の受け入れと『市役所ひろば』との連携も検討します。

検討の進め方

熊本市防災関連部局

検討委員会のイメージ

人的支援の容量確認

物的支援の容量確認

部署連携と配置検討

BCP性能の決定

対策本部設備検討

リエゾンスペース検討

エリア防災連携検討

意見聴取

意見を集約

計画案の提示

設計チーム

バックアップチーム

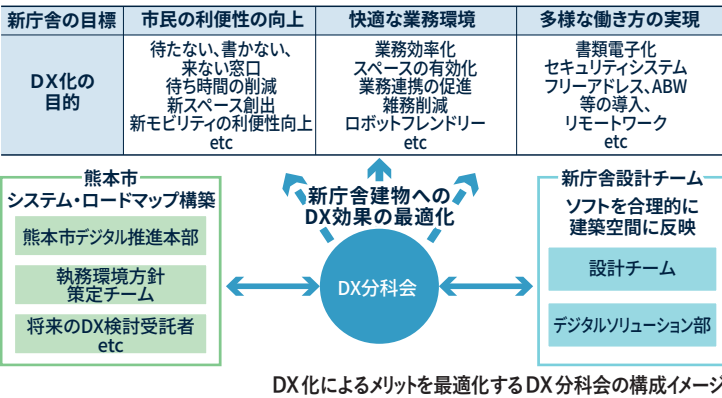
危機管理エリアの検討フロー図



(2) 周辺の交通事情を踏まえた車両動線、駐車場計画、交通計画の考え方と検討の進め方

## 公共交通利用啓発のショーケース

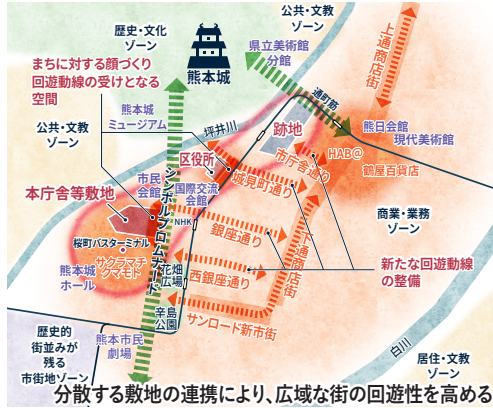
- 求心力が高まる本庁舎で公共交通利用促進方策をショーケース的に先導実施し、まちなかの魅力・回遊性向上につなげる。





(1)市民交流・官民連携・情報発信の場として市民に親しまれる庁舎、さらにはまちづくりの核として周辺地域と一体となり賑わいの創出を図る庁舎についての貴社の考え方と検討の進め方

## 市民に開かれたまちづくりの拠点・まちと連続したアクティビティを誘発する『まちなか庁舎』



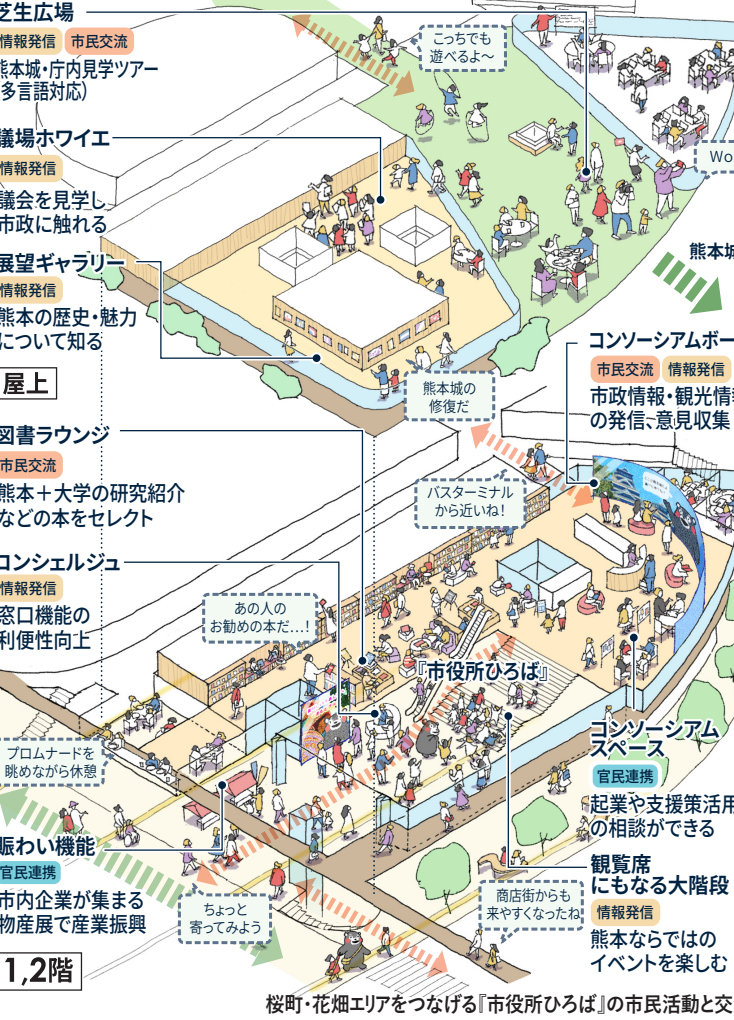
分散する敷地の連携により、広域な街の回遊性を高める

- 市民交流等の場として交通利便性に優れ都市機能が集積する立地を活かし、多くの市民・来街者・企業が訪れ交流できる機能空間が必要と考えます。
- また、周辺地域と一体となった賑わいを創出するためには各エリアとの回遊性向上に資する動線の整備や人の流れを受け止める設えが重要です。

### 本庁舎の考え方

#### 国内外への熊本・市政の情報を発信する『市役所ひろば』

- 本庁舎は、市民・企業との共創により市政課題を解き、更なる発展を生む、「新しい公共」の姿を体現する場を目指します。
- 400年のまちの歴史を継承するシンボルプロムナードと屋外空間である花畑広場に対し、屋内空間の『市役所ひろば』を一体的に整備し、開庁時間や天候に関らず柔軟に利用できる設えを検討します。
- 『市役所ひろば』は、賑わい機能を導入し、桜町バスターミナルとの接続により市民や来街者が立ち寄る機会を増やします。来庁者の交流やイベントの場を創出します。
- 地元企業や大学・商店街等と連携した、将来を担う産業育成・起業支援、外部からの企業立地や出店・出資等を促すPRなど、企業の情報発信・相談ができる『コンソーシアムスペース』を検討します。
- 屋上には、熊本城が見える『芝生ひろば』と熊本の歴史・魅力等の情報を発信する『展望ギャラリー』を検討します。



桜町・花畑エリアをつなげる『市役所ひろば』の市民活動と交流

1,2階

3階

4階

5階

6階

7階

8階

9階

10階

11階

12階

13階

14階

15階

16階

17階

18階

19階

20階

21階

22階

23階

24階

25階

26階

27階

28階

29階

30階

31階

32階

33階

34階

35階

36階

37階

38階

39階

40階

41階

42階

43階

44階

45階

46階

47階

48階

49階

50階

51階

52階

53階

54階

55階

56階

57階

58階

59階

60階

61階

62階

63階

64階

65階

66階

67階

68階

69階

70階

71階

72階

73階

74階

75階

76階

77階

78階

79階

80階

81階

82階

83階

84階

85階

86階

87階

88階

89階

90階

91階

92階

93階

94階

95階

96階

97階

98階

99階

100階

101階

102階

103階

104階

105階

106階

107階

108階

109階

110階

111階

112階

113階

114階

115階

116階

117階

118階

119階

120階

121階

122階

123階

124階

125階

126階

127階

128階

129階

130階

131階

132階

133階

134階

135階

136階

137階

138階

139階

140階

141階

142階

143階

144階

145階

146階

147階

148階

149階

150階

151階

152階

153階

154階

155階

156階

157階

158階

159階

160階

161階

162階

163階

164階

165階

166階

167階

168階

169階

170階

171階

172階

173階

174階

175階

176階

177階

178階

179階

180階

181階

182階

183階

184階

185階

186階

187階

188階

189階

190階

191階

192階

193階

194階

195階

196階

197階

198階

199階

200階

201階

202階

203階

204階

205階

206階

207階

208階

209階

210階

211階

212階

213階

214階

215階

216階

217階

218階

219階

220階

221階

222階

223階

224階

225階

226階

227階

228階

229階

230階

231階

232階

233階

234階

235階

236階

237階

238階

239階

240階

241階

242階

243階

244階

245階

246階

247階

248階

249階

250階

251階

252階

253階

254階

255階

256階

257階

258階

259階

260階

261階

262階

263階

264階

265階

266階

267階

268階

269階

270階

271階

272階

273階

274階

275階

276階

277階

278階

279階

280階

281階

282階

283階

284階

285階

286階

287階

288階

289階

290階

291階

292階

293階

294階

295階

296階

297階

298階

299階

300階

301階

302階

303階

304階

305階

306階

307階

308階



5



熊本市新庁舎整備基本計画策定及び基本設計・  
実施設計等業務委託に係る  
公募型プロポーザルの審査結果について

令和 7 年(2025年) 2 月

熊本市新庁舎整備基本計画策定及び基本設計・実施設計等業務  
受託事業者選定委員会



熊本市では、「熊本市新庁舎整備に関する基本構想（令和6年（2024年）8月）」で示した新庁舎の姿である「あらゆる災害に対応できる庁舎」「市民が利用しやすく、質の高い行政サービスが提供できる庁舎」「まちの賑わいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎」の実現を目指しています。

熊本市新庁舎整備基本計画策定及び基本設計・実施設計等業務受託事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、公平かつ公正に審査を行い、新庁舎の整備に向けた基本計画、基本設計及び実施設計等を一括して実施するにふさわしい者を選定しましたので報告いたします。

令和7年(2025年)2月20日  
熊本市新庁舎整備基本計画策定及び基本設計・  
実施設計等業務受託事業者選定委員会

委員長	田中	智之
副委員長	星野	裕司
委員	吉城	秀治
委員	菅野	拓
委員	藤本	章子
委員	深水	政彦
委員	上野	勝治



## 1. 契約候補者及び次点候補者

### (1) 契約候補者

日建・太宏共同企業体

### (2) 次点候補者

久米・桜樹会設計共同企業体

## 2. プロポーザルの経過

内容	日程・期限
第1回選定委員会 (プロポーザル実施要項等の審議)	令和6年(2024年)10月7日
第2回選定委員会 (プロポーザル実施要項等の決定)	令和6年(2024年)10月21日
プロポーザルの公告	令和6年(2024年)10月24日
参加表明書等に関する質問受付	令和6年(2024年)10月24日から11月12日まで
参加表明書等に関する質問回答日	令和6年(2024年)11月15日
参加表明書等受付(5者)	令和6年(2024年)10月24日から11月19日まで
第3回選定委員会 (参加資格審査、提案書提出者の決定)	令和6年(2024年)11月28日
参加資格審査通知(5者)	令和6年(2024年)11月28日
技術提案書等に関する質問受付	令和6年(2024年)10月24日から12月24日まで
技術提案書等に関する質問回答日	令和6年(2024年)12月27日
第4回選定委員会 (提案書審査、契約候補者の決定)	令和7年(2025年)2月2日
審査結果の通知及び公表	令和7年(2025年)2月4日



### 3. 選定委員会の審査経過

#### (1) 第1回選定委員会（令和6年(2024年)10月7日（予算決算委員会室））

- ・議題1から5について審議を行った。

##### 〈議題〉

- ・議題1：選定委員会の運営の考え方について
- ・議題2：特記仕様書について
- ・議題3：参加資格要件について
- ・議題4：提案を求めるテーマについて
- ・議題5：評価基準について

#### (2) 第2回選定委員会（令和6年(2024年)10月21日（予算決算委員会室））

- ・前回からの継続案件も含め、議題1から5について審議を行い、公告資料一式（「プロポーザル実施要項」、「特記仕様書」、「提案書等作成要領」、「契約候補者の審査及び選定に関する実施要領」、「評価基準」、「様式集」等）について決定した。

##### 〈議題〉

- ・議題1：採点方法について
- ・議題2：特記仕様書について
- ・議題3：第4回選定委員会の運営の考え方について
- ・議題4：提案を求めるテーマについて
- ・議題5：評価基準について

#### (3) 第3回選定委員会（令和6年(2024年)11月28日（本庁舎4階モニター室））

- ・参加表明書等の提出があった5者について、者名を伏せた上で参加資格審査を実施し、すべての者が参加資格を充たすことを確認した。
- ・そのうえで「熊本市新庁舎整備基本計画策定及び基本設計・実施設計等業務委託プロポーザル評価基準」に基づき、「1. 企業の経験と能力」及び「2. 配置予定技術者の経験と能力」について加点评価を行った

##### 〈議題〉

- ・議題1：プロポーザルの参加者が1者の場合の取扱いについて
- ・議題2：参加資格審査について
- ・議題3：審査講評等の公開期間について

#### (4) 第4回選定委員会（令和7年(2025年)2月2日（本庁舎4階モニター室））

- ・提案書等の提出があった5者に対してプレゼンテーション及びヒアリングを実施した。各委員が提案者の提案を評価し、最高得点者を契約候補者として、次点の者を次点候補者として決定した。

##### 〈議題〉

- ・議題：提案書審査について

#### 4. 審査結果

参加資格を有する下記の提案者5者について、選定委員会が公平かつ公正に審査をした結果、次のとおり契約候補者、次点候補者を選定した。

##### (1) 提案者(5者)の名称(五十音順)

梓設計・隈研吾建築都市設計事務所・ライト設計共同企業体
久米・桜樹会設計共同企業体
佐藤総合計画・ジメント設計共同企業体
日建・太宏共同企業体
山下設計・バオプラーン熊本業務委託共同企業体

##### (2) 審査結果(1,330点満点)

契約候補者	日建・太宏共同企業体	1,164点
次点候補者	久米・桜樹会設計共同企業体	1,132点
提案者A		1,128点
提案者B		1,068点
提案者C		1,045点

※呼称は市が任意に設定したものであり、プレゼンテーション審査時の呼称ではありません。



## 5. 全体講評

### (1) 総括

熊本市の新庁舎の目指すべき姿や規模、概算事業費、建設地など、新庁舎整備の基本的な考え方をとりまとめた「熊本市新庁舎整備に関する基本構想」を踏まえ、新庁舎の整備に向けた基本計画を取りまとめるとともに、建設を行うための基本設計及び実施設計等を一括して行うことを目的とした「熊本市新庁舎整備基本計画策定及び基本設計・実施設計等業務委託」の事業者選定にあたり、各者についての資格審査、プレゼンテーション及びヒアリングを含めた提案書審査を厳正に行った。

提案書等の提出があった5者それぞれについての講評は以下で述べるが、全体的には各者ともに入念な資料の読み込みや詳細な現地調査、豊富な経験に基づく的確な提案の検討の形跡が随所に見受けられ、それに基づいてなされた技術的提案は非常にレベルが高いものであった。

それゆえに評価で差を付けるのは各委員共に至難の業であったが、わずかな差が集積する形で各者間に点数差が生まれ、結果として契約候補者と次点候補者がそれぞれ選定された。

公告から提案書提出までの限られた期間の中で、これ程の技術的提案をまとめられた各者に畏敬の念と感謝の意を選定委員会として申し上げたい。

### (2) 参加資格審査

応募者が提出した参加表明書等については、参加資格の確認を行うとともに、「熊本市新庁舎整備基本計画策定及び基本設計・実施設計等業務委託プロポーザル評価基準」に基づき、各審査委員が「1. 企業の経験と能力」25点（委員合計175点）、「2. 配置予定技術者の経験と能力」45点（委員合計315点）の合計70点（委員合計490点）で評価した。

「1. 企業の経験と能力」の各項目は、すべての応募者が最高点であった。

「2. 配置予定技術者の経験と能力」は、「建築（総合）主任技術者の実務実績」を除いた項目について、すべての応募者が最高点であった。

### (3) 提案書審査

提案書審査は、資格審査の結果を伏せ、応募者が特定できない形で実施した。審査は予め設定した評価基準に基づき行ったが、特に提案書審査については各テーマに関して提案内容の的確性、創造性、実現性等を総合的に評価するかたちで行った。

なかでも「【テーマ1】熊本市が目指すべき新庁舎の在り方と実現するための手法等」については、配点が比較的高いことから分かるように、新庁舎の在り方に関するコンセプトやその考え方を特に重視した。

また、「【テーマ2】あらゆる災害に対応できる庁舎」、「【テーマ3】市民が利用しやすく、質の高い行政サービスが提供できる庁舎」、「【テーマ4】まちの賑わいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎」、「【テーマ5】新庁舎整備に向けたコストマネジメントの考え方」についても、あるべき庁舎を考える上で不可欠であることは間違いなく、結果的には全てのテーマについての的確な提案がなされることで、その総合性の高さが決定に至る大きな要因となったことは間違いなく。

ただし各テーマには当然関連性があることから、それぞれのテーマを包括する庁

舎全体としてのビジョンの的確性と質の高さ、さらにはそれを実現に導くための強い意志や情熱がプレゼンテーションやヒアリングを通じて感得できることも、総合的な観点として重要であったのではないと思われる。

## 6. 各提案者の個別講評

### (1) U社

「未来の価値を生み出す場づくりとなる『まちと共にある』庁舎」というコンセプトのもと、新庁舎を未来の価値を生み出す「みらいのひろば」と位置づけ、ハード・ソフト共に具体的かつ積極的な提案がなされたことについて、総合的に高く評価することができる。

「未来の価値を生み出す場をつくる『共創』のフォーメーションと設計プロセス」の提案では、まちへの想いや心象風景、地域の感性をカタチにすることが重要との考えから様々な「マエストロ」を中心に生み出される「市民マイスター」の誕生など独自性のある仕組みが掲げられ、その実現が望まれる一方、バックアップ体制までどうつながるかが不明という懸念も残る。

災害対応の観点に関しては、日常的な市民の居場所から災害対策司令拠点への転換や、人と情報の混乱から回避する配置計画など、フェーズフリーな庁舎実現のための工夫を評価することができる。

また、庁舎像に関しては、「時代の変化と共に歩めるフラットなワークプレイスとなる庁舎」として、拡張性のあるひとつながりのワークスペースと、多様な使われ方を生み出すコモンスペースを中心とした、協働交流型の空間構成を大胆に提案されている。これらの提案については、本庁舎よりも区役所向きではという疑問や、現状の課題解決につながるのか不明という見解もあるが、変化・更新に対応する新しい執務空間のあり方として一定の評価をすることができる。

一方で、交通計画に関しては、広域的な視点がやや不足していることや、検討の進め方について議論が足りない印象を受ける。

まちづくりの核となる庁舎に関しては、花畑広場との賑わいの連鎖を生む「みらいのひろば」や周辺環境と連続した水と緑を用いた庁舎デザインなど積極的な提案があるものの、広域的なまちづくりの視点が不足している印象も残る。

コストマネジメントに関しては、プレキャスト化やモジュール化によるイニシャルコスト抑制や、3段階のステップで庁舎をZEB化しオペレーショナルカーボンを削減することでランニングコストを抑制するという具体的な手法を評価した。

### (2) O社

新庁舎の在り方として「『くまもと2050のまちづくり』（賑わい・防災・エコロジー）の起爆剤となり、『ユニバーサルな市民サービス』を実現する新庁舎」を掲げ、詳細な都市分析に基づくまちづくりの提案や、公・民・学の共創によるユニバーサル市民サービスの提供という新しい住民サービスによる3つの柱を中心としたきめ細やかな提案は、まちづくりの核としての新庁舎のあり方を示すもので、広くまち全体を考えようとする姿勢が評価できる。

また、新庁舎周辺で想定される交通上の課題認識やそれを踏まえた交通計画の提案も一定の評価をすることができる。

一方で、コンセプトを基本計画、そして設計につなげるポイントと手法や、市民



に開かれた合意形成プロセスの提案において、市民ワークショップや庁舎デザインシャレットなど具体的な提案も確認されたものの、市民参加をどのように広げることができるかについての考え方と提案が不足している印象であった。

また、防災に関しては、市民や民間参画に関する考えが少し弱い印象もあり、執務室をどのように活用していくのかなど、災害時に場所が不足しそうな懸念のほか、ワークプレイスに関する提案が全体的に不足している感もあり、働き方の変化を支えるオープンプロアの大平面や、各階が連続するウェルビーイングな環境についての考え方や提案が弱いという懸念も残った。

まちづくりにおいても、デザインコードに関する積極的な提案があったが、実際に敷地以外での調和をどのように実現するのか、という点のほか、本庁舎や区役所のクラシカルな外観と周辺環境との景観的調和に関しても疑問が残った。

加えて、コストマネジメントに関しては、スケジュールを押さえていて考え方・進め方共に妥当であり、広域な都市ビジョンやまちづくりの視点が評価できる一方で、それが庁舎整備にどう反映されるのか、まだ通常の建て替えの範疇を大きく超えていない印象が残った。

### （３）Ｅ社（契約候補者 日建・太宏共同企業体）

「市民とともに『つなぐ 熊本』」との考えのもと、まちと人をつなぐ、まちとまちをつなぐ、そして未来につなぐという考えで大きくまとめられた提案であった。

「市民が集い、まちのシンボルとなる庁舎」「中心市街地の賑わいや回遊性を強化する『まちなか庁舎』」など６つのコンセプトを掲げ、それぞれ景観やシンボル性、中心市街地の回遊性、エリア全体の防災力の向上、誰もが使いやすいインクルーシブデザイン、フレキシブルDX庁舎、経済性と環境性能の両立など、具体的かつ実現可能性を感じさせるバランスの取れた提案が高く評価された。

特に、本庁舎はサクラマチクマモトとの関係を重視し、熊本城ホールからの眺望の確保と屋上庭園との一体化の検討など、景観や動線に関して積極的な提案が特徴的であり、その効果や将来性に関して期待を感じさせるものであった。

また、中央区役所に関しても具体的な検討と提案がなされており、その配置に関する提案や、市民の活動が電車通りから見える賑わいの風景に関する提案など、その的確性や実現性に高い評価を得た。

市民合意形成の過程において、まちの声を拾う「もしもステッカー」やオープンハウスの開催など、積極的な提案を評価できる。また市民意見を反映するWS・分科会と市民への情報発信に具体的な提案も見られた。

さらに、最も広域的に新庁舎周辺の交通計画を捉えている提案であり、公共交通を優先し自動車交通が負担をかけないことを目指す考えは県や市の方針とも一致していることや、コストマネジメントにおいて新たな課題に対応し、計画の遅延を最小化する『1 WEEKレスポンス』という考え方が評価された。

一方で、防災については、エリア防災の目線やフェーズフリーは良いが、セキュリティレベルが固定的で現実的ではないような印象もあったほか、本庁舎のワークスペースにもう少し柔軟性や拡張性があっても良いのでは、という課題は指摘できる。

#### （４）Ｉ社

新庁舎の在り方のコンセプトは、加藤清正による「一町一寺」の理念を踏襲しつつ「まちの大広間」を拡張し、さらに新たな時代への対応として柔軟性や可変性を併せ持つ「市民の暮らしを守りぬく『一町一間』」。まちとのつながり、人と人がつながる空間を核にして、市民の日常の居場所となり、災害時の拠点となる庁舎を実現する提案であった。

協議体ごとに担当者を配置する「かたんなつせ会議群」や市民意見の反映と周知を行うためのオープンプラットホーム会議の提案など、コンセプトを具現化するための仕組み等の意欲的な提案に一定の評価をすることができたほか、本庁舎の低層部には柔軟性・可変性を持たせた「むすびの間」を計画し、大襖の開閉により「まちの大広間」と連携することで多様な使われ方を実現すると共に、賑わいと回遊性に寄与するまちづくりの核となる提案に独自性が見られた。

その一方で、中央区役所に関する提案が少ないことや、現状の課題を踏まえた本庁舎執務スペースの提案がやや不足していることや、災害対応のセキュリティライン、リエゾンの考え方などもう一步進めて欲しかった。

また、交通に関しては、具体の台数をもとにした交通シミュレーションなどは現実的な提案で評価できる一方、『一町一間』というコンセプトを支える上での交通計画はやや見えにくい印象であった。

さらに、８つのワーキングの提案においては、市も入っていることになっており、実現性の観点から十分に検討されているかという疑問点や、コストマネジメントについては90%の建設費を目指すという考え方は良いが、全体的には一般的な提案にとどまっている印象を受けた。

#### （５）Ｔ社

「未来の“礎（石垣）”をつくり出す「歴史と今が共存する新しい熊本市庁舎」と題した提案は、防災拠点の庁舎、まちに開かれた庁舎、知的生産性を高める庁舎による“熊本ならではの庁舎づくり”で重視する３方針で構成され、それぞれが堅牢な外郭、熊本の魅力が集まる「フォーラム」、自発的な活動を生み出す「ワークスペース」として具体的に示されるように、明快な考え方とそれに基づく姿が印象的であった。

特に、まちの拠点となる低層部の「城下町フォーラム」は従来の庁舎には見られない独創的な空間であるが、それぞれの空間のまとまりと開放性を両立しつつ、また発信する場と議論する場が明快にゾーニングされた、シンボルであると同時に機能性も担保された場所として一定の評価を得た。

また、上階のワークスペースは大きなフロア面積を確保することで柔軟なオフィスレイアウトを可能にし、オープンスペースに「活動と情報の拠点」が点在する姿を提示した。

一方で、フェーズフリーな災害対応ということであるが、実際の機能発揮について検討が不足している印象であり、受援の動線と支援の動線が整理できていない印象を受けた。

また、強い拠点をつくりたいという意思を感じた一方、存在感のある本庁舎の姿がサクラマチクマモトや市民会館との間で、エリアとして調和の取れた景観形成になるのか疑問が残るとともに、市民意見を引き出す『リビングラボ』という仕組みの提案があったが、設計者の主体的な姿が見えにくいのが残念であった。



なお、近隣施設の連携として辛島地下駐車場との連携が特徴的であり、渋滞を緩和するための入口の分散化は評価できたことや、社会情勢や将来の見通しを踏まえた上での強い危機感に基づくコストプランニングの提案とその姿勢は評価することができる。

## 7. 選定委員会

本プロポーザルの審査は、次の審査委員（敬称略）により組織された選定委員会が実施した。

外部有識者	建築設計・まちづくり	田中 智之	早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科 教授
	都市景観	星野 裕司	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 教授
	交通施策	吉城 秀治	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授
	都市防災	菅野 拓	大阪公立大学大学院 文学研究科 人間行動学専攻 准教授
	建築設計	藤本 章子	熊本大学大学院 先端科学研究部 助教
市 職 員		深水 政彦	熊本市副市長
		上野 勝治	熊本市政策局 庁舎整備部長